

コミュニティ・カレッジからの転進学

カレッジでの2年間の勉強を終了した学生の4年制大学3年生への転進学は、システムとしてしっかり作られています。

カレッジと4年制大学は、転進学に関して協定を結んでいます。具体的には、B大学C学部が指定するDカレッジが開講している科目を規定の成績以上で受講すれば、転進学の申込み(application)が出来ます。そして、成績がよければ、転校合格の可能性が非常に高いのが実情です。

例えば、カレッジのESLクラスからスタートして2年後、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)に転校し2年で卒業して、現在は働いている私の教え子のA君がいます。彼は、高校卒業時点では、カリフォルニア州の高校卒業生のトップ15%程度しか入学できないカリフォルニア大学への進学は不可能でした。そこで、高校までの成績を全くゼロにしてくれるカレッジから再スタートしました。もちろん、カレッジでは本当にがんばって、長時間勉強しました。その成果が、全米トップクラスのUCLAへの転校でした。

コミュニティ・カレッジは、小学校から高校までに勉強で成果を上げられなかった者に対して、ゼロからのスタートで勉強をする、第二のチャンス(Second Chance)を与えてくれる学校なのです。

ヒロ君の決断：カレッジ進学とその理由

夏前に私が日本出張から帰ってくると、待ち侘びたように、ヒロ君がやってきました。そして、「高校を無事卒業できました。カレッジに進学して、UCLAに転進学します。」と宣言しました。

「その理由は？」と聞くのは、私の癖です。「自分が今、何をやらなければいけないのか、良く分かった」「両親も理解してくれて、応援してくれることになった」「カレッジから4年制大学に転進学するために必要な勉強をする決心がついた」と自信を持って、答えてくれました。

カレッジ進学：私が賛成した理由

「カレッジ進学」の決断はヒロ君自身のものです。が、私も彼の決断に賛成しました。そのおもな理由は2つあります。

まず、私はヒロ君の大学生としての基礎能力に疑問を持っていません。英語力も十分だし、基礎学力に問題はありませぬ。それなのに、これまでの高校での勉強でその成果が残せなかったのは、ただ、勉強のスキルを身につけるトレーニングが不十分だったからです。具体的には、自分なりの勉強の仕方が出来ていなかったり、スポーツで身につけた集中力をどう勉強に応用するかが体験できていなかったのです。一言でいうと、「雑な勉強」を高校生の間してきただけなのです。

さらに、この半年間以上のヒロ君との会話をとおして、勉強内容を頭越しに押し付けられる高校生としての勉強から、自分自身の将来の目標に応じて、自主的に勉強をしなければ

ならない大学レベルでの学びに対しての自覚が、はっきりと育ってきたことが分かったからです。

しかし、私はここでヒロ君から2つの約束を取り付けました。「College Algebraの問題を最初から毎日1章ずつやる」と「天声人語の毎日の書き写し」です。数学はヒロ君が苦手意識を持っている科目の復習と「きちっとした勉強」の、書き写しは「日々の繰り返しの勉強」のトレーニングが目的です。実は、これは彼に対する私からのテストでした。

受講のプラン作成

UCLAへの2年後の転進学のために必要なカレッジでの勉強のプランを具体的に決めなければなりません。偶然、ヒロ君が選んだカレッジがA君と同じだったので、彼とその友達を招いてアドバイスしてもらいながら、ヒロ君の希望も生かして、そのカレッジでの2年間の受講クラスのリストを作り上げました。

2年後の4年制大学への転進学を目指してカレッジで学んでいる多くの日本人留学生がいます。しかし、入学時点の受講プランがしっかり出来ていないために、途中で転進学をあきらめなければならない学生が多くなります。カレッジで勉強できるのは、4学期(Semester)だけで、夏や冬の学期はオプションです。転進学に必要なクラスをB以上(C以下の成績は認めない大学が多い)で終えるためには、十分な計画と準備が必要です。

ヒロ君のカレッジ生活が始まる

8月の下旬から、ヒロ君はカレッジに通い始めました。

2週間後に報告に来ました。「週4日、1日2・3コマの授業」「朝8時から2時間半のクラスが週3回」「Accountingのクラスも週2回。朝のクラスですが、働いている人が多くてのんびりしているの、注意してます」「授業の合間は、図書館などで勉強」「宿題はもちろん、予習にも力を入れてます」「夏の数学の勉強は役に立ってます。今の数学の授業が良くわかります」など、多くの話を聞きました。

まだ始めたばかりですが、ヒロ君が決めた大学生として生活を送っていることが、これらの言葉からよく分かります。

☆

「カレッジのクラスで全てAを取って、UCLAへ転進学」という彼の目標に向かって、順調なスタートを切ったようです。

これからどうなっていくのか、報告を続けますので、ご期待ください。

「ヒロ君の挑戦(2)」に続く



アメリカだからある「セカンド・チャンス」を生かして、4年制大学を目指す、ヒロ君奮闘記の第1回目です。これから、2年間、出来るだけリアルタイムで、ヒロ君の戦いを報告していく予定です。

この報告が、長期滞在している高校生のチョイスのアドバイスになれば、また、保護者の皆様がアメリカの教育を理解する助けになれば幸いです。もちろん、ヒロ君への応援も含めて、がんばります。